

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-2	利用者が主体性を持って、充実した時間を過ごせる場になるような取り組みを行っている
タイトル①	衝立の撤去やフロア間の交流など、利用者が力を発揮できるチャンスを見つけている	
内容①	従来は他者の動きなどの刺激によって集中が難しい利用者に配慮し、個人作業のスペースごとに衝立を設置していたが、今年度は減らして見通しをよくし、職員も利用者もお互いに顔を見ながら作業に取り組める環境作りを行った。また、作業フロアごとに簡易で個別に集中できるもの・難易度がありグループで取り組めるものと分けているが、一部の利用者は多忙な時に別フロアでの作業に参加することを開始しており、作業場面での利用者同士の交流を促進するとともに、さまざまな作業に挑戦する機会を増やしている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	4-1-1	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる
タイトル②	事故分類基準と外部報告が必要な重度区分を示した確な対応の周知徹底に取り組んでいる	
内容②	法人では、事故の分類基準を統一し、①分類(当人の生命身体、複合要素の事故、サービス、利用者のもの)し、②その分類にあった人・サービス・物の状態の表記、③各分類の重度による区分(事故～ヒヤリ)、④③の区分で都・区への報告が必要な部分・実施機関のガイドラインに沿った対応が必要な部分を明らかにした。これに伴い、リスクマネジメントマニュアルの改訂と報告書式の変更して職員への周知を行い、事故発生時の的確な対応の実施とともに、集計を分析し、法人全体での再発防止に役立てたいと考えている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目		
タイトル③		
内容③		

No. 特に良いと思う点	
1	<p>タイトル 法人傘下葛飾地区施設で常勤職員が理念に基づく行動規範について、自らの経験を支援介護の基本ブックに纏め、職員間で共有をした</p>
	<p>内容 法人では、職員が支援の実践から、理念を意識し行動規範や倫理綱領を学び、気づきを促し、職員としての自覚を醸成している。今年度、法人傘下葛飾地区施設では、理念の実践と職員間での気づきの共有を目指し、施設長・役職・リーダーによる理念の語りのほか、常勤職員が理念を具体化した行動規範について自らの経験を文章化して、支援介護の基本ブック個人版の冊子に纏め、職員間で共有をした。施設長は、現場の経験年数に比例して深い気づきを得られることから、定期的に気づきや理念の解釈を書き直して、理念への理解を深めていきたいと考えている。</p>
2	<p>タイトル 記述部分を増やしたアセスメント様式を使い、利用者の状態像・ニーズをよりの確に把握して効果的な支援計画作成に繋げている</p>
	<p>内容 以前から取り組んできたアセスメント様式の改善が完了し、昨年度から使用し始め今年度から新しい実施サイクルで稼働している。元々使用していた様式はチェック式で支援につながりにくかったが、項目毎に本人の様子・状況を記述する書式に改め、よりの確に本人の現状を把握できるようになり、支援計画内容も効果的な内容となっている。昨年度末から作業面を実施し、以降は半年ごとに生活面と作業面のアセスメントを交互におこなうサイクルで実施している。生活面を独立させたことにより、今後開始予定の生活介護でも有効活用が期待される。</p>
3	<p>タイトル 将来の生活介護事業の開始を見込んで、利用者の生活面も意識した計画作成やサービス提供への取り組みを行っている</p>
	<p>内容 ここ数年、特別支援学校の卒業生の利用希望はなく、近隣地域全体としての傾向として、今後はより一層若い世代のニーズは減り、一層高齢・重度化が進行していくものと分析している。このため、事業所では就労継続支援から生活介護事業への移行を計画しており、アセスメント項目として生活面での評価を入れ込んだほか、半年ごとのモニタリング時には「作業」「生活」それぞれを交互に行っている。それを踏まえて、クラブ活動やグループ外出の実施など従来からの活動の充実に加え、昼食提供時の見守り強化など、実際のサービス提供に反映させている。</p>
No. さらなる改善が望まれる点	
1	<p>タイトル 職員の補充による適切な人員体制を構築することで、事業所の特長を活かし職員間でより円滑に協働できる環境への回復を期待したい</p>
	<p>内容 事業所では、非常勤職員を正規職員に配置転換し非常勤職員の採用に努めるなど、人材の確保に力を入れているものの、依然として不足感がある。一方で、職員全員が参加する夕礼や職員会議があり、職員全体での合意形成と情報が偏りなく共有される環境が特長にある。職員の補充による適切な人員体制の構築により、職員の業務量の調整と緩和、職員の疲弊感の解消につなげるとともに、事業所の特長を活かして、職員間でより円滑に協働できる環境への回復やストレスマネジメントの強化を期待したい。</p>
2	<p>タイトル 令和6年度から始める生活介護との多機能施設化に向け、建物のバリアフリー化に伴う課題などに対し、具体的な取り組み実施が期待される</p>
	<p>内容 事業所では、区全体の就労継続B型利用希望者の減少や現利用者の高齢化を受け、中期事業計画に基づき、令和6年度からの生活介護との多機能型事業所の展開を計画している。生活介護事業での送迎サービスの実施に向けて、区との交渉のもと、玄関前の門の改修を計画的に進めている。しかしながら、建物内部のバリアフリー環境の整備を進めていく必要があるものの、具体的な青写真がまだ示されておらず、生活介護事業運営上の看護師の人員配置や職員の専門性の向上などと併せて、今後の着実な計画策定と実施が期待される。</p>
3	<p>タイトル 利用者への対応や言葉遣いを振り返る必要性を感じ全職員で共有に取り組んだが、実施回数が昨年比で減少したため再度の活性化を期待したい</p>
	<p>内容 事業所職員は法人が行う虐待防止研修に参加し利用者の人権や尊厳の観点から支援を振り返り、個人の行動計画や事業所が取り組むべきことに落とし込んでいる。事業所内で全職員が業務振り返りチェックを行った結果、利用者への丁寧な対応や言葉遣いをもう一度全員で共有化する必要性を感じた為、虐待防止委員が今年度の虐待防止研修の議題としグループ討議で改善策を模索する予定だったが実現できなかった。職員が自己点検や研修を通して支援の振り返りを共有できる仕組みが構築されているが昨年比で実施回数が減少している為、再度の活性化を期待したい。</p>